

第 17 回根研究集会に参加して

星野友紀

名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科

11月9日(土)、10日(日)、拓殖大学において第17回根研究集会が開催されました。私は、6月に日本女子大で行われた16回集会に続き2回目の参加でした。本集会は、1日目の午後の口頭発表から始まり、夜には懇親会とワークショップが開かれ、さらに2日目にポスター発表が行われ、内容が盛りだくさんな2日間となりました。今回は、拓殖大学の国際交流会館をお借りしての1泊2日の集会であり、多くの方と交流が持てる場となりました。口頭発表、ポスター発表は勿論のこと、一日目の夕刻から深夜まで引き続き行われたワークショップでは、本研究会ならではのテーマであります「植物における根の存在意義」にまで話題が進み、時間にするに短い間ではありましたが、とても内容が濃く、また私自身も多くの事を考え、勉強をさせて頂いた研究集会でありました。さらに、私はまだ研究を始めて日が浅く、集会に参加しても戸惑う事が多かったのですが、懇親会では参加者のみなさまの和やかな雰囲気と、この研究集会ならではのアットホームな感じで、非常に有意義な時間を過ごせたと思います。

研究集会での口頭発表、ポスター発表においては丁寧に、分かりやすく説明されており、またそれに対して活発な意見や質問が交われ、集会に慣れない私にとってはそれもまた非常に刺激的なものでした。さらに、本集会は様々な分野の研究者の方々に参加されており、「根」というものを対象にいろいろな角度から研究が行われ、非常に興味深く感じました。私は、オーキシン、ジベレリン等の植物ホルモンによる植物の生長生理について研究しております。動物とは異なり地上に固着して生活している植物は、それ自身を取り巻く外的環境要因に強く影響を受けており、これらを植物ホルモンを介して成長・分化の制御のための信号として巧みに

に利用する機構を有しています。本集会では、普段あまり接することがない農学系のテーマより、多くの外的環境要因に対する「根」の役割や作用機構について、新たな知識を得ることができ、視野が広まったような気がしました。特に服部太一郎氏(鳥取大学乾燥地研究センター)が紹介された、乾燥ストレス条件下でのソルガム乾物生産におけるケイ酸施肥効果の報告には、大変興味も持ちました。私は、今回は発表に至るまでの研究成果がなく発表は行いませんでしたが、本研究集会に参加し研究に対する大きな刺激と、いい意味での焦りを感じ、次回は是非とも発表を行いたく、そのための研究に力を入れていきたいと思いました。やはりどの研究集会、学会もそうだと思いますが、自分の研究を発表し、多くの人に自分の研究を知って頂き議論を交わすことが、集会、学会の場だと思います。その場にてまだ発表をしていない私は、植物の「根」に対してもまだまだ傍観者のように思います。「根」を研究し、本当の意味で本研究会の一員になれるよう、日々の研究を行っていききたいと思います。

最後になりましたが、今回の心温まる研究集会を主催していただきました拓殖大学の仁木先生に改めましてお礼を申し上げさせていただきます。ありがとうございました。今回の研究集会は1泊2日で開催され、また1日目の根研究よろず討論会では参加者のみなさまが気軽に討論することができる場を提供していただき、通常の集会では得ることができない有意義な時間を過ごすことができました。その討論会でも議題に上がりましたが、植物における「根」の存在意義という究極の問題が、この根研究会で明らかにできることを期待し、私もその問題に立ち向かいたいと思います。

2002年11月13日受付

*連絡先 〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑1 名古屋市立大学大学院システム自然科学研究科
Fax: 052-872-5867 E-mail: t.hoshino@nsc.nagoya-cu.ac.jp